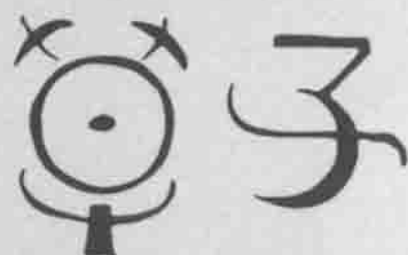


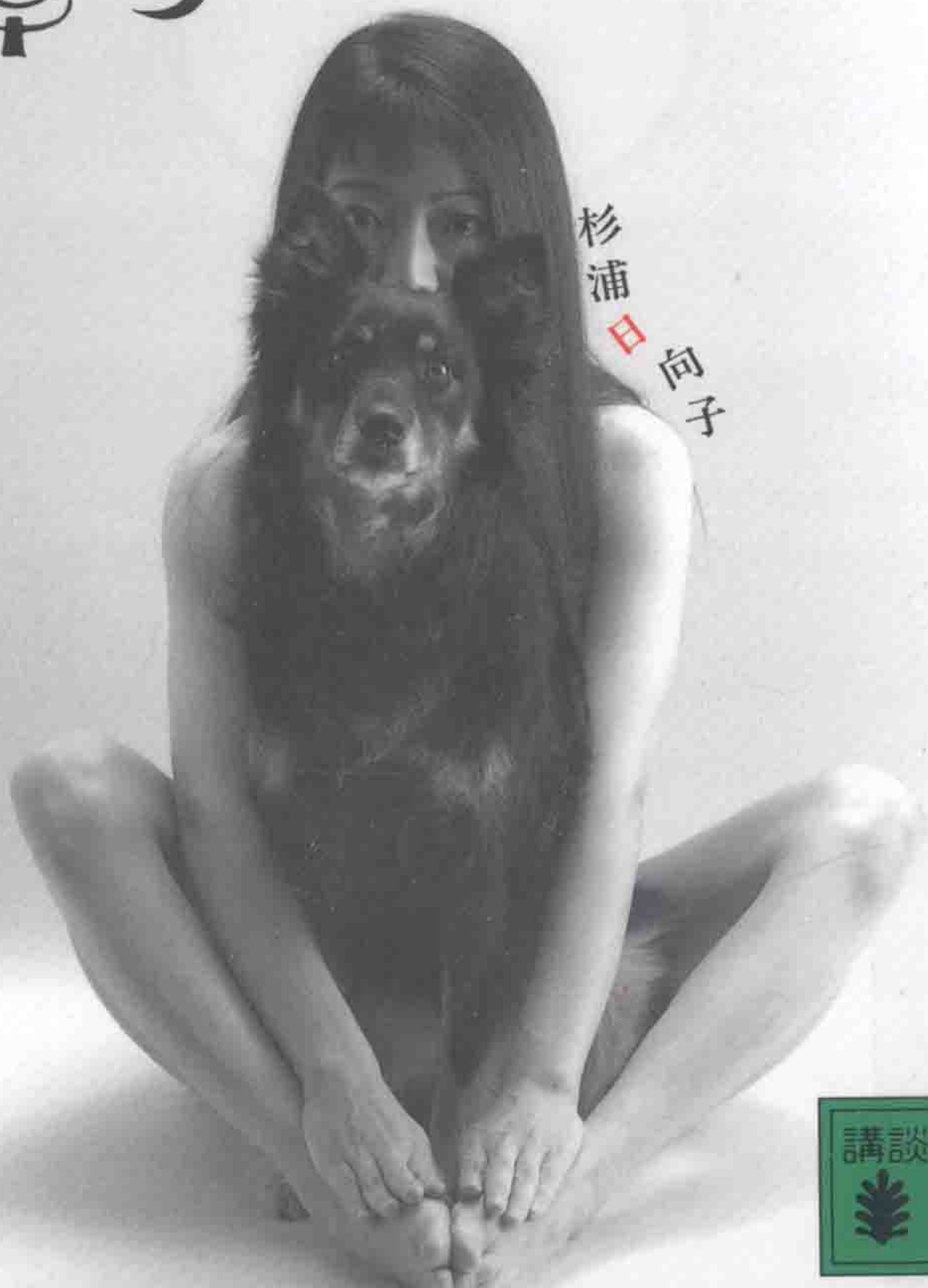


々

のんのんそうし



杉浦日向子



社文庫
講談





講談社文庫

常州大学图书馆
新装版
藏书章

杉浦日向子

講談社

著者 | 杉浦日向子 1958年東京都生まれ。日本大学芸術学部美術学科中退。漫画家、江戸風俗研究家。'84年『合葬』で日本漫画家協会賞優秀賞、'88年『風流江戸雀』で文藝春秋漫画賞を受賞。代表作『百日紅』『百物語』のほか、著書に『杉浦日向子の江戸塾』『うつくしく、やさしく、おろかなり—私の惚れた「江戸」』『杉浦日向子の食・道・楽』『隠居の日向ぼっこ』『一日江戸人』『ごくらくちんみ』などがある。2005年逝去。

新装版 しんそうばん のんのんそうし 吞々草子

すぎうらひ な こ
杉浦日向子

© Masaya Suzuki/Hiroko Suzuki 2012



講談社文庫

定価はカバーに表示してあります

2012年6月15日第1刷発行

発行者——鈴木 哲

発行所——株式会社 講談社

東京都文京区音羽2-12-21 〒112-8001

電話 出版部 (03) 5395-3510

販売部 (03) 5395-5817

業務部 (03) 5395-3615

Printed in Japan

デザイン——菊地信義

本文データ制作——講談社デジタル製作部

印刷——豊国印刷株式会社

製本——株式会社千曲堂

落丁本・乱丁本は購入書店名を明記のうえ、小社業務部あてにお送りください。送料は小社負担にてお取替えします。なお、この本の内容についてのお問い合わせは文庫出版部あてにお願いいたします。

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することはたとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。

ISBN978-4-06-277277-8

目次

巻の一 仮想正月 9

巻の二 ちんかも伝説 27

巻の三 ひねもすのたり 47

巻の四 東京干物 67

巻の五 東京だよオノオノ方 87

巻の六 オトコのチクビ 107

巻の七 トライバスロン 127

巻の八 なつかし狩り 147

卷の九 悲しき肉塊 165

卷の十 月が出た出た 185

卷の十一 感傷海峡 205

卷の十二 ポのシゴト 225

卷の十三 新酒三昧 245

卷の十四 ジュリアナじゃ 265

卷の十五 ラッキョ男のキス 285

卷の十六 尻遍路 305

卷の十七 理由なき酩酊 325

卷の十八 隠居志願 345

巻の十九 さぬきにはまる 365

巻の二十 元気なやつら 385

巻の二十一 花火と寄生虫 405

巻の二十二 なにわ蟬しぐれ 425

巻の二十三 ベニテントリッパ 445

巻の二十四 裸の最終回 465

現代版黄表紙『吞々草子』 石川英輔 484



講談社文庫

新装版
吞々草子

杉浦日向子

講談社

目次

巻の一	仮想正月	9
巻の二	ちんかも伝説	27
巻の三	ひねもすのたり	47
巻の四	東京干物	67
巻の五	東京だよオノオノ方	87
巻の六	オトコのチクビ	107
巻の七	トライバスロン	127
巻の八	なつかし狩り	147

巻の九 悲しき肉塊 165

巻の十 月が出た出た 185

巻の十一 感傷海峡 205

巻の十二 ポのシゴト 225

巻の十三 新酒三昧 245

巻の十四 ジュリアナじゃ 265

巻の十五 ラッキョ男のキス 285

巻の十六 尻遍路 305

巻の十七 理由なき酩酊 325

巻の十八 隠居志願 345

巻の十九 さぬきにはまる 365

巻の二十 元気なやつら 385

巻の二十一 花火と寄生虫 405

巻の二十二 なにわ蟬しぐれ 425

巻の二十三 ベニテントリッパ 445

巻の二十四 裸の最終回 465

現代版黄表紙『吞々草子』 石川英輔 484

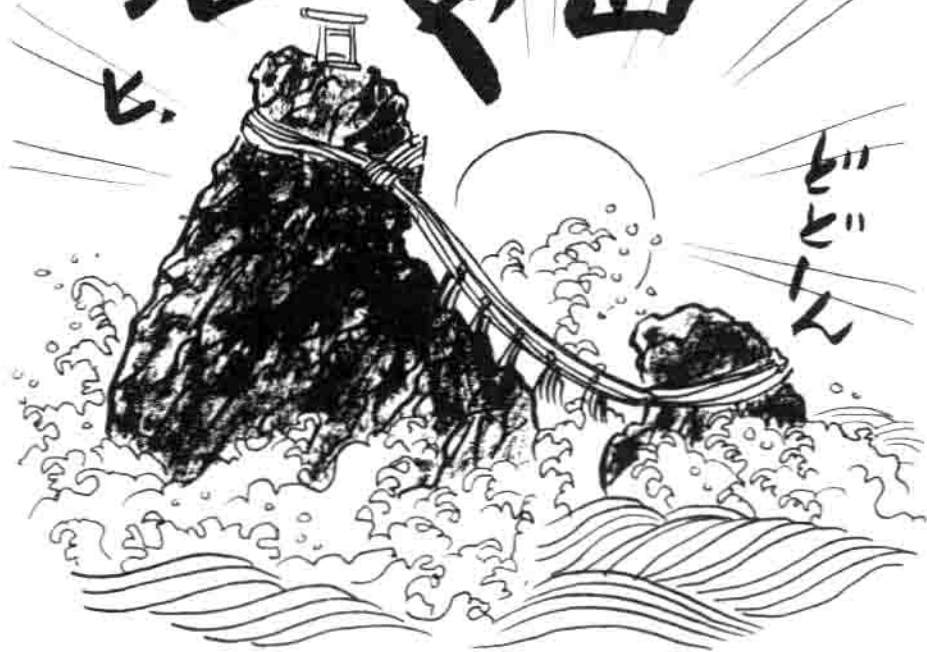
春
の
タ
マ
子
の
うし

杉浦日向子
と
ホ
ア
ル
M
子

卷の一

仮想正月

初日の出
二見浦や
夫婦岩



帰つて来るのはウルトラマンや山本リンダばかりじゃない。さよならイワシ（前シリーズ『東京イワシ頭』）又来て吞々。棒組共々、臆面もなく舞い戻つちまつた。

照れ隠しのお色直し、ほつかむり手拭の柄を変え「吞々草子」。イエ滅相めつそうもない。のんでえゝのんでえゝにあらじ、のんびりのんきにの、吞々で。エ、白魚をきめこみやがつて、はらわたは見え透いてるつてえん。ま、白魚とおだてて下さりや重畳ちようじよう、つるりん一吞みやつてくんまし。

で、吞々草子。「東京」と「御利益ゴリやく」の重荷を下ろし、足の向くまま気のむくまま、所定めぬ同行二人。ベベン。

「第一回、一月号なので、何か、目出たい、お正月らしいものを、ひとつ」
出会った頃、フレッシュ・フルーティーな新入社員だった、棒組ポアール・ムース